

主 題：主イエスの祈り 2

聖書箇所：ヨハネの福音書 17章6－19節

今日は17章6節のところからみことばを学んで行きます。私たちは「イエスの祈り」について前回から学びを始めました。前回はこの1－5節を通して、イエス・キリストご自身のご自身に関して祈っておられることを見ました。イエスはある一つのことだけを願って生きておられました。それは父なる神の栄光を現わすことだと見て来ました。どのようにイエスはこの父なる神の栄光を現わされたのでしょうか？それはみこころに忠実に生きたということでした。

☆主イエスの祈り

1. イエスご自身のための祈り 1－5節

2. 弟子たちのために祈られた祈り 6－19節

今日、私たちが見たいのはこの6節のところからです。ここには、弟子たちに関する祈りが記されています。イエスは弟子たちのために祈られました。先ず、この6－8節には、祈りを始める前に、イエス・キリストの弟子とされたことがどんなに素晴らしい祝福なのか、どんなに素晴らしい恵みなのかということをお話しています。救われて神の子とされたこと、クリスチャンとされたことがどんなに素晴らしいことかをお話しています。

◎弟子とされた祝福、恵みについて 6－8節

1) 救われたこと

6－8節、「**6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。7 いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。8 それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。**」、救われた人、本当のクリスチャンとはどういう人なのか、この救いに関してイエスは二つのことをお話しています。

◎本当のクリスチャンとは？救いに関してイエスが教えること

(1) 救われた人は神によって選ばれた者

6節に「**…あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、**」とあります。クリスチャンとは父なる神が世から選び出した者たちであるとみことばは教えるのです。この世から神があなたを選び出して下さったのです。エペソ人への手紙の中でパウロはそのことをもう少し詳しくお話しています。1：4－5を見て下さい。「**4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。**」、世界を造る前からクリスチャンであるあなたを神は選んでおられたのです。5節「**5 神は、ただみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。**」、「**ご自分の子にしようと**」、つまり、救われることです。神が愛をもってそのことを決めておられたのだとあります。あなたは神の愛によって選ばれたのです。同じエペソ1：11を見ると「**私たちは彼にあつて御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。**」とあり、今、あなたが罪赦されて永遠のいのちをいただいて、こうして日々歩むことができるのは、すべて神のご計画である、神があなたをそのように選んでおられたからだとお話しているのです。クリスチャンである皆さん、少なくとも私たちはそのことを神に感謝することができるはずですが、なぜ選ばれたのか、それは分かりません。しかし、分かっていることは神があなたを選んでおられたということです。だから、今、あなたはこの素晴らしい救いを喜んでいて、この救いを楽しんでいて、それはすべて神の選びの故だとお話しています。

(2) 救われた人は神の所有とされた者

ヨハネ17：6から見て行くと、繰り返されていることばがあります。6節「**彼らはあなたのものであって**」、9節「**なぜなら彼らはあなたのもものだからです。**」、10節にも「**わたしのものはみなあなたのも、あなたのもはわたしのものです。**」と。生まれながらの私たちは例外なくサタンのものでした。しかし、罪赦されて救われたクリスチャンは、サタンから解放されて今度は神のものへと生まれ変わらせて下さったのです。そのことをこのみことばは私たちに繰り返し教えるのです。旧約聖書でもそのことを繰り返しお話しています。たとえば、詩篇100：3「**知れ。主こそ神。主が、私たちが造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。**」、私たちは神の民となったのです。ペテロはIペテロ2：9で「**しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。…**」、私たちは神

のものになったと教えています。このようなすばらしい救いを私たちはいただいているのです。救われている皆さん、あなたは神が選んでいてくださった、そして、今あなたは神の所有とされているのです。

2) 赦されたこと

6節の最後に「**彼らはあなたのみことばを守りました。**」とあります。大切なことをイエスは語っておられます。この「**みことばを守りました**」ということについて二つのことが言えます。

(1) 赦し

16章を見ると、非常に興味深いことをイエスは弟子たちに話しておられます。31節を見ると「**イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。」**」とあります。なぜ、こんなことを言われたのでしょうか？30節には「**いま私たちは、あなたがたがいっさいのことをご存じで、だれもあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これで、私たちはあなたが神から来られたことを信じます。**」と弟子たちは言っています。イエスはもう今から十字架に架かろうとしています。3年以上、彼らはイエスとともに生活してきたのに、最後になってこんなことを言うのです。そこで、イエスは「**今、信じているのですか。**」と31節で言われたのです。イエスはどのような思いでこのように言われたのでしょうか？がっかりしたかもしれません。32節を見ましょう。「**見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとり残す時が来ます。**」と、これから起こることをイエスはご存じです。これから、弟子たちはイエスを見捨てる、だから、イエスは独りぼっちになってしまうと。確かに、そのことは起こりました。ゲッセマネの園でイエスが捕らえられたとき、弟子たちは皆、自分の身を案じて逃げて行きました。イエスがさばかれるときはどうでしたか？イエスは一人でさばきをお受けになっています。そのようなことをイエスは話された後、今度はイエスは父なる神の前で弟子たちのとりなしをしたとき、「**彼らはあなたのみことばを守りました**」と言われています。守っていますか？いません、失敗に次ぐ失敗です。彼らは不信仰の限りを尽くしました。彼らの信仰が弱かったからです。それでも、イエスは「**彼らはあなたのみことばを守りました**」と言っているのです。つまり、このとりなしにおいて、イエスは彼らの罪を全く責めておられません。なぜでしょう？赦されたからです。何という愛に満ち溢れたお方でしょう！これから何が起こるのか、すべて知った上で、弟子たちがどれほど弱い罪深い者かを知った上で、「**彼らはあなたのみことばを守りました**」と言うのです。その罪が赦されたからです。私たちもそうです。毎日の生活でどれほど罪を犯していることでしょうか。しかし、神はそれを赦してくださっています。赦されるということがどれほどすばらしいことなのか私たちは忘れてはいけません。

(2) 従順

この「**守る**」ということばにはいろいろな意味がありますが、一つは「信仰によって受け入れる」という意味があります。また、別には「従う」という意味もあります。恐らく、イエスはここで父なる神の前にとりなしをするとき、「**彼らはあなたのみことばを守りました**」、従って来たと言いました。というのは、神のおことばに従うというのは救われた本当のクリスチャンの特徴だからです。みことばにはそのことが繰り返し教えられています。ヨハネの福音書だけにそのことを見てみましょう。ヨハネ8：55、イエスのご自分のことをこのように言っています。「**けれどもあなたがたはこの方を知ってはいません。しかし、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしはあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っており、そのみことばを守っています。**」、もちろん、イエス・キリストには罪がなかったから救われる必要はありませんでした。しかし、イエス・キリストの特徴は父なる神のみことばに従っていたことです。14：23を見てください。今度はイエスご自身のことから私たち人間のことに移ります。「**イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。**」、イエスを愛する者はわたしのことばを守ると言います。24節にはこうあります。「**わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。**」、つまり、イエスを愛する人はイエスのことばに従うけれど、イエスを愛さない人はイエスのことばに従わないと言うのです。同じヨハネはIヨハネ2：5でこのように言っています。「**しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。**」と。今、ヨハネが記したいくつものみことばを見て来ました。ヨハネが私たちに教えていることは、みことばを守ることがその人が救われていることの証拠であるということです。18年間、シカゴのムーディー教会で牧会されたアイアンサイドはこのように言っています。「**神のご性質をいただいた者として、すべてのキリスト者の中には、神のみこころを行ないたい、神のみことばを守りたいとの願いがある。この願いがない者は新生していない。**」と。今、私たちがみことばを見て来たように、彼も同じことを言うのです。つまり、新しく生まれ変わった者、神のご性質をいただいた者、その人のうちには当然、神のみこころを行なって行きたい、神のみことばに従って行きたいという願いが与えられているはずです。だから、生まれ変わったのです。新生し

たのです。ゆえに、その人のうちにそういう思いがないのならその人は一度も生まれ変わっていない、救われていないと言っているのです。これがまさにここでヨハネの17章のみことばが私たちに教えてくれていることです。もう一度、ヨハネ17章を見てください。この話をした後、イエスは7-8節で救いに関して補足をしています。

◎救いについての補足

8節を見ると「それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。」とあります。つまり、イエスは神のおことばを人々に伝えたと言うのです。ヨハネ7:16にはこうあります。「そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。」、イエスのご自分のお考えを話されたものではありません。わたしが語ること、わたしが教えることはわたしを遣わした父なる神の教えであると。だから、イエスは17:8で「あなたがわたしに下さったみことばを」と、父なる神のみことばをわたしは人々に教えたと教えるのです。それに対しての人々の反応はどうでしょう？8節に「彼らはそれを受け入れ、」とあります。そして、8節の最後に「あなたがわたしを遣わされたことを信じました。」とあり、この「受け入れ」と「信じました」の二つの動詞に注目してください。これは救いの過程を私たちに教えてくれるのです。イエスがみことばを語られた、それを聞いた人たちがどうしたかということがここに記されているのです。「受け入れる」ということばは、それを拒まないで受け入れるということです。そして、次の動詞「信じました」は疑わないうで信じるという意味をもったことばです。だから、人々はイエスのメッセージを聞いたときに、それを拒まないで受け入れ、それを信じたのです。まさに、これは人が救われて行く過程を明らかにしたのです。人々はイエスのことばによって彼がメシヤであることを信じたのです。ローマ10:17「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」、人々はみことばを聞きました。それを拒まないで受け入れました。そして、疑わないうで信じました。そして、救いが与えられました。10:17が教える通りです。ですから、私たちの罪が赦されて新しく生まれ変わるためには、私たちはみことばを聞き、みことばを心から受け入れて、それを信じることです。

同時に、私たちの信仰の成長においても同じことが言えます。私たちがみことばを聞き、それを受け入れ、それを実践して行くことによって信仰は成長します。神のおことばは私たちの信仰が成長するために与えられています。Ⅱテモテ3:16-17「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」、聖書は有益なものだ、それは神の人、救われているあなたが「すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるため」と、そこに目的があると言うのです。聖書が与えられた目的はクリスチャンであるあなたが信仰者として成長して行くことです。だから、私たちはこのみことばを学ぶことが必要なのです。みことばを学び、みことばをしっかりと理解し、それを実践することです。

イエス・キリストは弟子たちに対して、祈りを始める前に、救いに関して、神が備えてくださったすばらしい恵みについて話をされたのです。そして、それを話した上で、今度はすばらしいイエスの祈りを私たちは見ることになります。

◎弟子たちに対する祈り 9-19節

9節「わたしは彼らのためにお願いします。世のためにはなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。」、この祈りは世の人々のため、イエス・キリストをまだ信じていない人への祈りではなかったのです。信じている人々のためにイエスが祈られた祈りです。何のために祈ったのでしょうか？10節「わたしのものはみなあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。」、イエスがこの祈りをされたのは、栄光を現わすために生きた弟子たちが、ますます栄光を現わす者として歩み続けて行くようにと、そのことを願ってイエスは祈りをされているのです。弟子たちはイエス・キリストの栄光を現わしましたが、どのように現わしたのでしょうか？二つのことを見ます。

◎どのようなことでイエス・キリストは栄光を受けられたのか

(1) 弟子たちが救われることによって：どんな罪人でもその人がイエス・キリストを信じて罪の赦しをいただいたときに神の栄光が現わされます。なぜなら、神の恵みのすばらしさ、神のあわれみのすばらしさ、この救いの恵みのすばらしさが明らかにされるからです。

(2) 救われている一人ひとりが主のために生きることによって：なぜなら、神に従って行くことによって、神はその人を変えて行ってくださるからです。そのときに、変えてくださる神のことが明らかにされるのです。そうして、神は栄光をお受けになるのです。だから、イエス・キリストが願われたことは、もうすでにイエスは栄光をお受けになった、その栄光を神に帰した弟子たちが継続してそのような生き方をして行くように、大変な世の中であって、勇気をもって信仰をもって神の栄光を現わし続けること、そのことを願ってこの祈りをされているのです。

◎弟子たちのために祈られた祈りとは？

弟子たちがそのような者として歩み続けて行くために、五つの祈りが記されています。

(1) 罪からの守り 11節

イエスはクリスチャンであるあなたが罪から守られるようにと祈っています。11節「わたしはもう世になくなります。彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。」、もうわたしはこの世にいとなくなると、イエスの昇天のことです。イエスが天にお帰りになるのです。そこで、この11節が言うように、クリスチャンは地上に残され、その残された人たちに助けが必要であることをイエスはご存じなのです。考えてみてください。そこにいたのはユダを除いた11人の使徒たちです。ペテロ、ヨハネ、ヤコブなど、信仰の勇者たちです。でも、神は彼らに助けが必要であることをご存じなのです。まして、私たちに助けが必要であることを神はご存じです。私たちがどんなに弱いかをご存じです。「あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。」と、「保つ」というのは、彼らを守ってくださいということです。父なる神さま、今度はあなたが彼らを守ってくださいと言うのです。では、いったい何から守られることをイエスは祈ったのでしょうか？それは様々な汚れから、靈的に妨げとなることからの守りです。なぜそう言えるのでしょうか？11節を見ると、ここでイエスは父なる神のことを「**聖なる父**」と呼んでいます。この世の墮落と比較されています。この世は非常に墮落している、でも、あなたは聖なるお方です。しかも、この祈りが求めていることは最後に記されています、「**彼らが一つとなるためです。**」、靈的に一致することです。靈的に一致するために必要なことは、一人ひとりが罪から解放されて行くことです。たとえば、この群を考えたとき、神が望んでおられるのは、群が靈的に一つになって行くことです。しかし、サタンが望むことは群の中に分裂や分派を生み出すことです。一致しないことです。なぜなら、一致すればキリストの栄光がますます明らかに示されるから、それを望んでいないサタンは一致しないようにと様々な妨げをもたらします。そのために必要なことは、イエスを信じる一人ひとりがきよめられて行くことです。この一致に関して11節が教えるのは「**わたしたちと同様に**」ということです。父なる神と子なる神が完全に一致しているように、そのように兄弟姉妹が一致するようにと。私たちに必要なことは一人ひとりが罪から解放されて一つになって行くことです。幼い子どもは人のことを考えません。自分のことしか見ません。信仰的に幼い人たちは自分のことしか考えられません。人が自分のために何をしてくれるのか、そのことしか考えません。自分が人のために何かをするなど考えません。私は弱いから、私は苦しんでいるから、私は悩んでいるから、だから、あなたは私のために何をしてくれるかと、幼子のように…。確かに日々の生活においていろいろな問題があります。いろいろな悲しみ、いろいろな痛みがあります。しかし、信仰が成長すると、それらを後回しにして人のために何ができるのか、人を喜ばせるために、人を助けるために、彼らの信仰が成長するために何ができるのかと、人々に仕えようとしています。そのわざを神は祝してくださるのです。そして、靈的な一致が生まれて来るのです。私たちの成長を妨げるものは自分です。自分が常に中心でなければならぬ、自分が常に満たされなければいけない、自分が常に望んでいるものを与えられなければならないという、この自分が問題なのです。神は私たちに自分を捨てて、自分の十字架を負ってわたしについて来なさいと言われました。私たちは人のために何ができるのか、皆が成長するために何ができるのか、そのことを考えて歩むことです。

皆さんに考えていただきたいことは、今、11節のみことばを見たのですが、神はあなたの弱さを知ってあなたに助けが必要だということを分かちおられ、そのために祈ってくれているということです。そのことは感謝だと思われませんか？私のことを一生懸命説明しなくてもよいというのは本当に感謝だと思われませんか？あなたが説明する前から神はそのことを知っておられるのです。あなたがどんなに弱いか、あなたには助けが要ると、それで神は祈ってくれているのです。私たちはもっとこのことを覚えて感謝すべきです。このような神です。罪から守られるようにと祈ってくださっているのです。

(2) 永遠の守り 12節

神の守りは一時的ではありません。永遠です。12節「わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。」、イエスは弟子たちといっしょにおられたときに彼らを守りましたが、いなくなってしまった後はどうなるのか、その守りは終わりません、永遠に続きます。今度はイエス・キリストが父なる神に願われたのです。実際に、ともにいたときと同じように守られるのです。ヨハネ10：28を見てください。「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」、神の約束はイエス・キリストを信じて罪赦されたあなたは絶対に滅びないと言っているのです。ここにあるように「**彼らは決して滅びることがなく**」と絶対にあり得ないと言っているのです。救われた人には永遠の救いが約束され与えられ

たのです。この問題は解決済みなのです。29節を見てください。「わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」と、イエスはここで、イエスを信じて救われたクリスチャンは絶対に見捨てられることはないと言っておられます。いろいろな問題に遭遇すると私たちは神を遠くに感じるかもしれません。でも、神は決してあなたを見捨てないと言われるのです。神の御手からあなたを奪い去るようなことはあり得ない、神がいつもその全能の御手をもってあなたを守り続けてくださっているというのです。救われたあなたを神はしっかり支えてくださっているのです。皆さん、私たちはこの神の御手の中にあるのです。全能の神によって私たちは守られ続けているのです。決して、一人になることはない、神に捨てられることはないのです。

16章に戻って、32節にこのように書かれています。「見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとり残す時が来ます。いや、すでに来ています。しかし、わたしはひとりではありません。父がわたしと一しょにおられるからです。」、父なる神がわたしとともにいてくださるからわたしは一人ではない、孤独ではないと言われます。私たちもそのように言えるのです。どんなときにも神は私たちとともにいてくださると。クリスチャンである皆さん、感謝ではありませんか？神がいつもそばにいてくださるのです。この12節の後半に「滅びの子」のことが出て来ます。これはイスカリオテのユダのことです。彼が滅んだということが記されているのです。実際に、この後彼は滅ぶのですが、まだ、その時が来ていないのですが、もうすでにそれが起こったかのようにイエスは話されたのです。何が起こるのか知っておられるからです。このユダが滅んだことに関して「聖書が成就するため」だと書かれています。詩篇41:9には「私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた。」と記されています。同じことばがヨハネ13:18に引用されています。「わたしは、あなたがた全部の者について言っているのではありません。わたしは、わたしが選んだ者を知っています。しかし聖書に『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かってかかとを上げた。』と書いてあることは成就するのです。」。イエスがここで教えられたことは、神の約束、神のみこころは必ず成るということです。このイスカリオテのユダの滅びに関して、神は彼がそのような選択をすることはご存じでした。では、ユダが滅んだ責任は神にあるのでしょうか？神はユダに愛を示し続けておられました。ユダは神の愛を経験しながら、イエスの教えを聞いていながら、彼の選択は救い主を、人類にとって唯一の希望であるイエス・キリストを拒んだのです。彼の滅びの責任は彼自身にあるのです。そのことをイエス・キリストはここで話されているのです。神の約束は必ず成る、私はそのことを聖書の中に見ます。聖書が教えていることは必ず成ります。なぜなら、明日のことを知っておられる神が書かれたからです。しかも、この神はすべての主権者です。このようなお方が私たちの神です。だから、私たちはその方が私たちに教えてくださることをしっかり信じ信頼して生きて行くことができるのです。不安になっても、このみことばが私たちに慰めを与えてくれます。あなたは永遠に守られている、この力強い神の御手のうちに守られているというのです。

(3) 心が守られる 13節

あなたの心が守られると言います。13節「わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。」、クリスチャンとしてこの世を生きて行くその日々において、私たちは様々な困難を経験します。この世は私たちを憎みます。イエス・キリストが憎まれたように、私たちも様々な困難や苦しみを体験します。この世にあって、きよく正しく生きようとする私たち、それはある人たちにとって煙たい存在です。その結果、この社会や地域、ときには親族や友人たちからも私たちは苦い経験をすることがあります。もしかすると、今あなたも様々な困難の中にいるかもしれません。孤独を経験しているかもしれません。でも、どのようなことを経験しているとしても、みことばが私たちに教えていることは、そのようなあなたを知っている神が、その状況の中であなたの心を守ってくれていると言うのです。この13節のみことばで「わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために」とあります。新改訳では少し分かりにくいので、口語訳を見るとこのように書かれています。「今、わたしはみもとにまいります。そして、世にいる間にこれらのことを語るのには、私の喜びが彼らのうちに満ち溢れるためであります。」と、こちらの方が原語の訳に近いのです。「喜びが全うされる」というよりも、その喜びが彼らのうちに満ち溢れるためなのです。つまり、イエスがここで言われていることは、イエスの喜びがイエスを信じているあなたのうちに満ち溢れるようにと、そのことをイエスは望み、祈っておられるのです。今触れたように、ここで言われている喜びは神ご自身の喜びです。イエスご自身の喜びです。だから、その喜びに私たちが満たされ続けて行くために、私たちが神の前を正しく歩んで行くことは当然のことです。みことばが私たちの心を満たし、私たちの思いや考えを支配するなら、神との交わりを楽しみながら歩んでいるなら、主に信頼して主の教えに従い続けて行くなら、当然、あなたはこの主の喜びで心が満ち溢れるようになって行くというのです。なぜなら、神のおことばは神の喜びをあなたの心にもたらすからです。

エレミヤはこのように言っています。15:16「私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ。私にはあなたの名がつけられているからです。」、神のおことばが私の心の喜びとなったと。詩篇119:14には「私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでいきます。」と、神のおことばがこの地上のどんな宝よりも素晴らしいと言うのです。同じように、詩篇119:162には「私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。」、猟師が素晴らしい獲物を見つけて喜ぶように、いや、それ以上に、私はあなたのみことばによって心が喜びに満たされると言っているのです。ですから、私たちが覚えておきたいことは、イエスを信じたあなた、救われたあなたに神が約束されたこと、それは、あなたには神の喜びがもうすでに与えられたということです。では、その喜びを私たちは継続して味わい続けて行くために必要なことは何でしょうか？私たちの心がこの神のおことばによって支配され続けることです。もし、私たちがみことばを見てもすぐに忘れてしまう、よくあることですが、それでは私たちがその喜びに満たされ続けて行くことを期待しても無理です。しっかり反芻しなければいけません。忘れないように、書いたものを覚えてそれがいつも心にあるように、私たちも努力しなければいけません。なぜなら、みことばが私たちを支配するなら、この主の喜びが私たちを満たしてくれるからです。このように神は教えてくださっているのです。ですから、その喜びをいただいて生きるかどうかはあなたが決めなければいけないのです。

「幸せということばと喜びということばには大きな違いがある」と、先ほどのアイアンサイドが言っています。「この幸せ、(英語ではhappinessと言いますが)、このことばは古い英語のことば、Hapということばに由来する。では、このHapということばがどういう意味かと言うと「チャンス、運」という意味をもっている。」と。実際に辞書を調べて見ると、これは「偶然のできごと」と定義しています。ですから、「幸せ」というのは、私たちが救われる前に求めてきた幸せ、もしかすると、クリスチャンも救われていながらそのような幸せを求めている可能性があります、それは周りの状況が左右するのです。なぜなら、偶然のできごとだからです。アイアンサイドは言います。「起こった出来事が良いこと楽しいことなら人は幸せを感じる。しかし、もし楽しくないことなら人は不幸せを感じる。」と。なぜなら、そのことばの意味がそうだからです。チャンス、運、偶然の出来事だからです。だから、周りの出来事によって私は幸せだと思う時があれば、そう思わない時もあるのです。その根拠は私の周りに私がうれしいと思うこと、楽しいと思うことが起こっているかどうかなのです。彼は続いて言います。「しかし、キリスト者には神との交わりのうちに歩むことによる深く調和した喜びがある。それは幸せが決して影響を及ぼすことも変えることもできないものである。これが初代教会の弟子たちの証にあのような力をもたらしたものだ。」と。つまり、今、私たちが見てきたように、信仰の勇者たちに共通していることは、周りの出来事や自分の置かれている環境や境遇に自分の喜びを求めようとしたのではないから、幸せを見出そうとしたのではないからです。もし、そうなら良いことが起こっているときはいいけれど、いやなことが起こり始めると喜びが消えてしまうのです。それは私たちが経験してきました。でも、みことばが教えてくれたように、主の喜びによって自分の心が満たされることを求めて生きるなら、周りのものに左右されることはありません。どのようなことが起ころうと、どのようなことに遭遇しようとして、私たちの喜びは変わらないのです。そのことをイエスは話され祈られたのです。そのような喜びをもってあなたが生きて行けるようにと。神はどれほどあなたがこの神の喜びをもって毎日の生活を歩んで行くことを望んでおられるか、そのことをみことばが教えているのです。そのように生きることができるのです、皆さん。それがみことばの約束です。どうすればいいのか、今話しました。そのように歩んで行くなれば、毎日起こる様々な辛い悲しいしんどい難しい出来事の中にあっても、この喜びをもって歩むことができるのです。この喜びは世の人々がどんなに願っても、どんなに求めても、絶対に得ることのできない喜びなのです。その喜びを私たちクリスチャンは得たのです。その喜びに満たされて生きて行きなさい、そのために私は祈ると。感謝です。こんな祝福を神は私たちにくださったのですから。神の喜びをもって、その喜びに満ち溢れて日々を過ごすことが赦されたのです。そのことを喜んでいきますか？感謝していますか？そのように生きていますか？なぜ、それが必要なのでしょうか？それは、あなたが神の喜びをもって生きるなら、神の栄光が現わされるからです。世の人々に、私の神は真の神だということを明らかにすることができるからです。喜んでいないクリスチャンが多すぎるのです。この喜びをいただいていながらこの喜びをもって生きていない人々が多すぎるのです。罪を悔い改めることです。見ているところが間違っているのです。どのように歩むべきかを神は教えてくださったから、そのように歩み始めることです。主イエス・キリストはあなたの弱さを知った上であなたのために祈ってくださっている、あなたがこの主の喜びに満たされて生きて行くことができるようにと。

「神さま、どうぞ私を変えてください、あなたがこのような約束をくださったことに感謝します、あなたのみことば以外に私の目が向けられていたことを赦してください、私はあなたのみことばを愛する

者として歩んで行きたい、あなたのみことばをしっかりと覚えてその助けによって、みことばを实践する者になって行きたい、なぜなら、そのことによって、私を変えてくださっている、この約束をくださったあなたが人々の前で明らかにされるから、だから、変えてください。』。この約束はクリスチャンであるあなたに与えられたものです。そのように歩んでください、神はあなたを助けてくださいます。

今日、私たちが見て来たことは、このイエス・キリストが私たちのためにどのようなことを祈ってくださっているのか、罪から守られるように、永遠の守りがある、そして、あなたの心がどんなときにも守られるようにと。感謝することが山ほどあります。このような祝福を神は私たちにくださったのです。だから、私たちはこの方のために、この方のためだけに生きるのです。この方の栄光のために。